

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、令和6年度(財)日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 練習について

- (1)練習会場は、棒高跳ピットとバックストレートとし、お互いに譲り合って安全面に注意して使用すること。但し、バックストレートは周回競技の前後は使用できない。
- (2)バックストレートの練習では、逆走やミニハードル等を置いての練習は禁止する。
- (3)競技場内での練習は、許可時間であっても係員の指示に従うこと。

3. 招集について

- (1)第一招集所は本競技場の器具庫海側（100m スタート側）に設ける。
- (2)招集時刻は次のとおりとする。
 - ・トラック競技・フィールド競技とも 競技開始 30 分前に開始し、競技開始 20 分前に完了する。
- (3)リレー参加チームは、競技者係よりオーダー用紙を受け取り、各ラウンドの招集完了時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。決勝においてオーダー変更がない場合は、決勝の招集開始時刻までにその旨を競技者係に口頭で申し出ること。
- (4)招集の方法については次のとおりとする。
 - ①競技者は、招集開始時刻までに第一招集所に行く。役員の指示に従って移動し最終点呼を受ける。その際、ナンバーカード・スパイク・商標等の点検を受ける。
 - ②招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなして処理する。
 - ③棄権する競技者は、招集完了時刻までに所定の棄権届を競技者係に提出すること。
 - ④2種目を同時に兼ねる競技者は、その旨を本人または代理人が招集完了時刻までに競技者係に申し出ること。

4. 競技について

- (1)トラック競技のレーン順及びフィールド競技の試技順は、プログラム記載順とする。決勝のレーン順は、主催者が決める。
- (2)トラック競技の競技者は、競技者係より腰ナンバーカードを受け取り、右腰の中心線より少し後方に付ける。
- (3)スパイクピンは、先端が鋭利でない長さ7mm以下のものとする。ただし、走高跳は9mm以下とする。
- (4)スタート時のコールは英語(イングリッシュコール)で実施する。
- (5)スタートでは、同一競技者が2回フライングで失格とする。
- (6)スターティングブロックの使用は決勝のみとする。

- (7)競技者は、安全確保のためにフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)に従って走ること。
- (8)トラック競技の競技者は、フィニッシュ後は競技場からでないように移動し、役員並びに場内指令の指示に従って退場すること。
- (9)フィールド競技の競技者は、当該競技役員並びに場内指令の指示に従って退場すること。
- (10)リレー競技に使用するマーカーは各チームが準備し、一人一か所に限り使用することが出来る。使用したマーカーは前走者が取り除くものとする。
- (11)走高跳のバーの上げ方は、下記の通りとする。
男女共 1m05、1m10、1m15、1m20、1m25 (以後3cmずつ上げる)
- (12)走り幅跳びは、4回の試技(3回でベスト8その後1回)で行う。
- (13)ジャベリックボール投げは、全員3回の試技とする。試技の際は、ボール本体を持ち、オーバーハンドスローで投げることにする。
- (14)ジャベリックボール投げは、やり投げピットを使用する。(計測角度もやり投げ同様とする。)助走距離は15m以内とする。

5. 表彰について

- (1)種目別に6位までの入賞者に賞状を授与する。
- (2)各種目の6位までの入賞者の得点により、男女別及び男女総合3位までのクラブを表彰する。但し、得点は各クラブ各種目上位2名までとし、リレーは各クラブ1チームとする。

6. その他

- (1)大会出場時の発病・負傷については、応急処置以外の責任は負わない。
- (2)貴重品の管理は各自で行うこと。紛失の責任は負わない。
- (3)主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、日本陸上競技連盟個人情報保護方針に基づき取り扱う。尚、取得した個人情報は、大会の記録発表その他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。